

デジタルへの第一歩ガイドライン の紹介

(Introduction to the Zero to Digital Guidelines)

TRANSLATION
COMMONS



2022-2032 | INTERNATIONAL DECADE OF

Indigenous Languages

目

言語デジタル化	2
デジタルへの第一歩シリーズ	3
要約版 デジタルへの第一歩シリーズ	4
この文書のオリジナルの英語版、および Translation Commons からの翻訳とその他のガイドラインについては、リソース ページをご覧ください。	4
誰がこれらのガイドラインを活用すべきでしょうか？	5
Translation Commons	5
ユネスコ	5

次 世界中の先住民の言語は前例のない危機に直面しています。世代が進むごとに、多くの言語が消滅し、貴重な文化的知識とアイデンティティが失われています。ある言語が消滅すると、世界はその共同体の伝承、生態的な慣習、口承の歴史、芸術、音楽、薬草の知識、技術、精神的信仰、価値観、食文化について、かすかな記憶しか、あるいはまったく記憶を持たないかもしれません。

現代世界における先住民コミュニティの疎外の増大する要因は、デジタルシステム上で彼らの母国語を使用できないことです。これは深刻な結果をもたらし、彼らの独自のニーズや視点に対処する努力を妨げる可能性があります。たとえば、これは彼らの生活に影響を与える政策や経済を形成する組織への参加を妨げます。それは、彼らの知識を人類に貢献することや、彼らの意見を完全に、正確に、そして必要なときに力強く、コミュニティ外の人々に表現することの障害となっています。さらに、それはオンラインで利用可能な膨大な情報資源やツールへのアクセスを妨げます。メンバー間で合意を得ることは、特にディアスポラ全体でインパクトを受ける可能性があります。そして最後に、孤立は外部の人々が彼らの価値観や文化を誤って伝えるリスクを高めます。

言語デジタル化

彼らの母国語をデジタル化することは、先住民コミュニティがこの疎外に対抗するためのインパクトのある一歩に過ぎません。これにより、彼らは自らの言語の独自性を維持しながら、世界の舞台でより平等に参加できるようになります。さらに、モバイルおよびデスクトップのソフトウェアが彼らの言語をサポートできるようになります。デジタル化により、ネイティブスピーカーはオンラインでコミュニケーションを取り、知識を共有し、一般的なソフトウェアやデバイスを活用できるようになります。

各コミュニティが自らの言語のデジタル化プロセスを開始し、管理することも重要です。これにより、コミュニティは言語データの所有権とガバナンスを維持し、文化の不正流用を制限することができます。

言語をデジタル化しようとしているコミュニティは、次のベストプラクティスを理解する必要があります。

- 言語に関する資料を収集、注釈付け、保存する。
- データ主権を維持しながら言語データを共有すること。
- 言語および技術標準化団体への参加。
- コミュニケーション、出版、母国語でのアプリケーションを可能にするデジタル システム上での言語の実装を実現する。
- 文法、正書法、機械翻訳、AIなどをサポートする高度な自然言語処理ツールの開発。

デジタルへの第一歩シリーズ

デジタルへの第一歩シリーズは、国際先住民族言語の十年（IDIL）を支援するために Translation Commons が開発している継続的なプロジェクトです。この情報ギャップに対処するため、先住民言語データを収集、整理し、言語をオンラインで公開するための包括的で段階的なフレームワークを提供します。

すでに公開されているガイドライン（複数の言語で利用可能）には、次のものが含まれます。

- デジタルへの第一歩ガイドラインの紹介
- デジタルへの第一歩：あなたの言語をオンライン化するためのガイド
- 言語データ収集ガイドライン
- 用語ガイドライン
- 言語のデジタル化の利点
- フォント作成ガイドライン

要約版 デジタルへの第一歩シリーズ

Translation Commons は、これらのガイドラインの要約版を作成し、ユネスコ ライブラリーで共有できるようにしています。現在までに、以下の要約版が出版されています。

- デジタルへの第一歩ガイドラインの紹介-この文書

- [言語データ収集ガイドライン（要約版）](#)

この文書のオリジナルの英語版、および Translation Commons からの翻訳とその他のガイドラインについては、[リソース ページ](#)をご覧ください。

誰がこれらのガイドラインを活用すべきでしょうか？

これらのガイドラインは、先住民言語の復興に携わるさまざまな個人および組織を対象としています。

- 先住民族言語を守る人々とそのコミュニティ
- 研究者や学者
- 政府機関とNGO
- テクノロジー開発者

Translation Commons

Translation Commons は、言語デジタル化をサポートし、言語の専門家を指導し、言語業界向けのコースとリソースを提供する非営利のボランティア コミュニティです。私たちの主なプログラムの一つは、言語のデジタル化を希望する先住民および少数言語コミュニティにロードマップを提供する言語デジタル化イニシアチブです。私たちはチュートリアルやワークショップを提供し、ツールやアプリケーションを作成し、言語の支持者と業界の専門家を結び付けています。公平なデジタル アクセスをサポートすることで、関心のある言語コミュニティが世界的なオンラインアクティビティに参加し、母国語でコンピュータアプリケーションの利点を追求できるようにするという私たちの使命をさらに推進します。

ユネスコ

ユネスコは、2003年に多言語主義の促進と利用およびサイバースペースへの普遍的なアクセスに関する勧告を採択して以来、言語デジタル化の実践を積極的に支援してきました。これは、デジタル形式の多言語コンテンツとシステムの開発と一致しており、先住民族を含むすべての文化が自らの言語で自己表現し、サイバースペースにアクセスできるようにします。

さらに、この勧告では、加盟国に対し、インターネット上で地域および先住民のコンテンツを制作するための能力構築を奨励し、支援するよう求めています。したがって、ユネスコは、国際先住民言語の十年（IDIL2022-2032）の枠組み内で、先住民言語コミュニティのデジタルエンパワーメントを支援します。